

## バングラデシュ内政

平成 17 年 12 月 6 日  
在バングラデシュ日本大使館

2001 年の総選挙で大勝し、国民の大きな期待を担った BNP 連立政権は、期待された程の成果をあげていない。ドナーが政府に要求しているガバナンスについては一向に改善されず、選挙公約の多くも実施されていない。ただし、最近の物価高騰を除けば、マクロ経済情勢については概ね良好である。

2002 年 9 月以降、地方の映画館、アワミ連盟集会等での爆破事件、大量の武器密輸の発覚が相継ぎ、いずれの事件についても真相がほとんど解明されていない。爆破事件との関連で、イスラム教政党と連立を組む現政権の下でのイスラム原理主義・武装組織の台頭を懸念する声が西欧諸国中心に次第に強まりつつある。

アワミ連盟は、小規模な左派政党と共に野党 14 党連合を組み、次期総選挙に向けて選挙管理内閣及び選挙管理委員会の改革案を提出するとともに、改革が実現されなければ選挙をボイコットするとの姿勢を明らかにしている。2005 年 11 月に発表した野党連合の「ミニマム・ナショナル・プログラム」実施を政府に要求し、次期総選挙に向けて今後さらに、集会、デモ、ハルタル（ゼネスト）等の反政府運動を強化すると見られている。今後、各党とも次第に選挙態勢にシフトするものとみられ、二大政党の得票率が拮抗する中で、ジャマティ・イスラミーをめぐる動きが注目される。アワミ連盟にとり次期選挙で敗れることは 10 年間続けて政権から遠ざかることになり、次期選挙は長期的な党の興亡をかけた重要な選挙になるとみられる。

### 1. BNP 連立政権の成立と主な施策

(1) 2001 年 7 月にアワミ連盟政権が任期を満了したことに伴い、政権はラーマン前最高裁長官を長とする選挙管理内閣に引き継がれ、10 月 1 日、選挙管理内閣の下で概ね公正、平穩に総選挙が実施され、BNP を中心とする野党 4 党連合が 300 議席中 214 議席獲得し、大勝した。同年 10 月、カレダ・ジア BNP 総裁は首相に返り咲きを果たした。

(2) カレダ・ジア BNP 総裁は 2 回目の政権担当であり、また与党連合は国会で圧倒的多数を占めているため、思い切った改革への国民の期待は極めて高かったが、過去 4 年間の統治は国民の期待に応えたとは言い難い。最大の問題点は、党首脳が権力を独占しているにもかかわらず、国家発展のための強い意欲と明確なビジョンに欠けるため本来の指導力を発揮し得ず、日々の内政は与野党の対立に終始している点にあると見られている。与野党の対立は議会制民主主義を損ねているのみならず、野党が実施するハルタル（ゼネスト）は経済にも悪影響を及ぼし、外国投資の阻害要因となっている。BNP が選挙前に掲げた選挙公約でもあったオンブズマンの新設、県及び郡評議会の設置、首相・閣僚の資産公開、チッタゴン丘陵地帯問題の解決、印とのガンジス河水配分協定の修正等はほとんど実施されていない。

(3) 汚職に関し調査を行っている NGO であるトランスペアレンシー・インターナショナル (Transparency International) は、2001 年から 5 年連続で、バングラデシュは世界で最も汚職が蔓延していると認識されている国であるとする調査結果を発表した。汚職を取り締まる組織として反汚職局が存在したが、反汚職局は首相府の下に置かれた組織であるため、独立した中立的

な「反汚職委員会」の設置が急務とされていた。2003年7月、政府は反汚職委員会設置法案を国会に提出し、一部修正の後、2004年2月に法案を可決した。その後、2004年11月、元選挙管理委員会委員長他2名よりなる反汚職委員会が発足されたが、前身の反汚職局職員の引き継ぎ等の問題が浮上しており、反汚職委員会は未だ本格的な活動を行っていない。

(4) ただし、最近の物価高騰を除けば、マクロ経済を中心とする経済情勢は好調であり、現政権成立時には10億ドルまでに低下した外貨準備高は、一時30億ドル台にまで増加した。また、ダッカ市の環境改善(ポリエチレンバック・2気筒オート三輪・老朽車両のダッカ市内での使用の禁止)、女子教育の普及(2年生までの女子児童に対する教育の無償化、貧困層児童に対する奨学金の供与)、国営企業の民営化等の点で成果が見られた。

## 2. 治安情勢の悪化、爆破事件等

(1) 前政権末期から悪化した治安情勢の改善は現政権の課題であったが、ジア政権発足後も治安情勢が大きく改善されたとは言えない。現政権成立後、アワミ連盟支持者が多いとされているヒンドゥー教徒への迫害事件が頻繁に報道された。その後、殺人、ゆすり、誘拐、強姦等の一般犯罪が増加し、1日当たり平均11件の殺人事件が発生している計算になるとされた。また2002年9月以降、爆破事件が相継ぎ、大量の武器密輸も発覚したがそのほとんどが解明されていない。

(2) 2002年10月、政府は「オペレーション・クリーン・ハート」と称して、治安の改善のために軍の導入に踏み切ったため、治安は一時的に改善された。しかしながら、50名以上の被疑者が尋問中に死亡しており、その多くに拷問と思われる傷跡があったため、死因に疑問がもたれた。2003年2月、政府は軍の導入中に発生した死亡事件、拷問、人権侵害に関係した者に対する司法措置を排除するために「合同作戦免責法」を可決した。このような措置は違憲かつ人権侵害であるとする非難が国内で高まった他、アムネスティ・インターナショナル、欧州議会等も非難した。その後、再び治安情勢が悪化したため、政府は警察・軍・国境警備隊よりなる緊急行動隊(RAB: Rapid Action Battalion)を組織し、2004年6月よりRABによる犯罪組織取り締まりを本格化した。RABは治安改善に大きな成果を上げたものの、犯罪組織取り締まりの過程で発砲による死者が相継ぎ、西側諸国・人権団体等はRABの強引な取り締まりに懸念を示した。

(3) 前政権末期に頻発した爆破事件は一時なりを潜めていたが、2002年9月には南西部のシャトキラの映画館・スタジアムで、また2002年12月には北部のマイメンシンの映画館で爆破事件が発生し、多くの死傷者が出た。さらに2004年1月以降、北部のシレットのイスラム聖廟・映画館等で爆破事件が4件発生しており、同年5月のイスラム聖廟での爆破は在ダッカの英国大使を標的に手榴弾を投げつけたもので、大使は重傷を負った。上記以外にも小規模な爆破事件は頻繁に発生している。

(4) 2003年6月、北部のボグラ県で放置されたトラックから、60万個余りの弾丸、120キロの爆薬等が発見・押収された。同年11月にはダッカ市内のバグダ地区で、AK47ライフル4丁、銃弾990発、手榴弾20個、時限爆弾4個等が押収された。さらに、2004年4月、南東部の港湾都市チッタゴンの国営肥料工場の船荷陸揚場にて、AK47ライフル銃690丁、手榴弾25,020個、銃弾1,840,000個を含むトラック10台分もの大量の密輸武器が押収された。本件は武器の量の多さに加え、摘発された場所が異例であり、インドの新聞は、武器は印の北東州の反政府組織に供給することが目的であったと報じた。

(5) 2004年8月、ダッカのアワミ連盟事務所前でのハシナ総裁自らが参加したアワミ連盟集會に7、8個の手榴弾が投げられ、アワミ連盟幹部1名を含む20名余りが死亡し、100名以上が負傷するという一大惨事となった。さらに、2005年1月、ハビガンジ県で開催された集會に出席したアワミ連盟国会議員のキブリア前蔵相に対し手榴弾が投げられ、キブリア前蔵相を含む5名が死亡した。キブリア前蔵相はESCAP事務局長をも務めた国際的にも知名度の高い人物であり、事件は大きな反響を生んだ。

(6) 2005年8月17日に全国64県のうちムンシーゴンジ県を除く63県で同時多発爆破事件が発生した。また、同年10月3日にチッタゴンを含む東部3県、10月18日にシレット県(未遂)、11月14日にジャロカティ県、11月29日にチッタゴン県及びガジプール県、12月1日にガジプール県で、裁判所、裁判官、弁護士、警察官等を狙ったとみられる爆破事件が発生している。現場に残されたリーフレット及び逮捕者の供述から、実行組織はイスラム過激派組織「ジャマトウル・ムジャヒディン・バングラデシュ(JMB)」であると見られているが、同組織幹部の行方はつかめていない。西欧諸国中心にイスラム教政党と連立を組む現政権の下でのイスラム原理主義・武装組織の台頭を懸念する声が次第に強まりつつある一方、国内イスラム原理主義組織の背後に他国情報機関の関与を疑うむきもある。

(7) 相継ぐ爆破事件に対し、各国は深刻な懸念を表明し、政府に対し全面的な捜査、犯人の逮捕・処罰を要求した。ダッカにおけるアワミ連盟集會爆破事件に対しては、インターポール、米国のFBIが捜査協力したが、真相は全く解明されておらず、首謀者も逮捕されていない。また武器密輸事件に関しても、末端のトラック運転手が逮捕されたのみで真相は不明である。治安の悪化の原因として警官の少なさ、警察の捜査能力の低さ、警官の低い志気・腐敗、犯罪組織と警察・政治家との結びつき、国境管理の困難性が原因とされている。爆破事件の首謀者に関しては多くの説があるが、政府にはこれまでに発生した爆破事件を解決しようとする政治意志が必ずしもみられず、犯罪を犯しても、つかまらない、罰せられないとの風潮が強まり、事件が益々エスカレートしていると指摘されている。

### 3. 与野党の対立

(1) 総選挙で大敗したアワミ連盟は、選挙は選挙管理委員会等の共謀により公正に行われなかったとして選挙結果の取り消し・再選挙の実施を求め、議員就任宣誓式への出席を拒否した。その後、議員宣誓に踏み切ったものの、国会をボイコットし続け、2002年3月、前アワミ連盟政権下での「官公庁事務所でのムジブル・ラーマン肖像の掲示措置」が廃止されたことに対し強く反発し、原則としてアワミ連盟議員全員が辞職する旨を発表したが、結局、辞職するには至らなかった。国会議員は国会の活動日を90日間連続して欠席した場合、議席を喪失するため(憲法67条)アワミ連盟議員は上記90日の期限が到来する直前の2002年6月に国会に出席した。しかしその後も議事進行手続き、野党議員の発言時間等をめぐり議長及び与党議員と鋭く対立し、アワミ連盟は議会のボイコット、出席、退席を繰り返している。2005年11月末現在、ハシナ総裁の連続欠席日数は77日に達しているため、今後のアワミ連盟の出方が注目されている。

(2) ハシナ総裁は現政権がアワミ連盟を消滅させるためにアワミ連盟関係者を殺害、迫害していると批判するとともに、JIが加わっている現政権はタリバン、アル・カーイダと繋がりを有するとの言辞を内外で繰り返した。しかしながら、上記主張は国内では支持されているとは言い

難く、逆に海外でのバングラデシュのイメージを汚したとの非難を生んだ。2004 年に入り、アワミ連盟のジョリル事務局長は、アワミ連盟は現政権を 2004 年 4 月末までに退陣させるための「トランプ・カード」を有しているとの発言を繰り返し、大きな関心を生んだものの、結局「トランプ・カード」が何を意味したのかさえ不明なまま、4 月 30 日は大きな混乱もなく過ぎ、同事務局長のこのような発言は強い反発を招き、アワミ連盟内にもシコリを残した。

( 3 ) 2004 年 8 月のダッカでのアワミ連盟集会爆破事件に対し、アワミ連盟は事件はハシナ総裁の殺害を目的としたものであるとし、政府、BNP のみならず、イスラム過激派、軍部、ムジブル・ラーマン大統領暗殺グループ等の関与を示唆し、現政権の退陣を求めた。このため、事件を契機に反政府運動が一挙に高まるものと懸念されたが、その後の反政府運動は予想に反し盛り上がり、アワミ連盟が捜査に十分な協力を行わなかったことが一部で批判を生んだ。しかしながら、2005 年 1 月のハビガンジにおける爆破事件後は、他の野党とともに事件の解明、現政権の即時退陣を求め、2・3 日間の連続ハルタルを繰り返した。

( 4 ) 2005 年 7 月、アワミ連盟を中心とする野党 14 党連合は、選挙管理内閣及び選挙管理委員会に関する改革案を発表し、全政党のコンセンサスにより選ばれた首席顧問( 選挙管理内閣の長 ) 及び選挙管理委員の下で次期総選挙を実施することを要求するとともに、改革が行われなければ選挙をボイコットするとの方針を明らかにした。

( 5 ) 2005 年 11 月、アワミ連盟を中心とする野党 14 党連合は、現政権下では最大の規模となったダッカ市内ポルトン広場での大集会にて、23 項目の「ミニマム・ナショナル・プログラム」を発表し、現政権に対しその実施を要求するとともに、将来自分たちが政権を取った場合に実施することを約束した。23 項目には、自由で公正な選挙を通じたセキユラーで民主主義的な政府の樹立、汚職撲滅、物価抑制、投資環境整備、貧困撲滅、失業対策、農業保護、チッタゴン丘陵地帯和平協定の実施、水資源管理における地域協力強化、国民参加を通じた国防政策策定等が盛り込まれた。選挙を 1 年数ヶ月後に控え、今後さらに集会、デモ、ハルタル( ゼネスト ) 等の反政府運動が強まることが予想される。

#### **4 . イスラム武装・原理主義組織**

( 1 ) 報道によれば、バングラデシュには武力によるイスラム革命を信奉するイスラム武装組織が少なくとも 12 グループ存在し、これらグループはパキスタン、インド、アフガニスタン、サウディアラビアの組織と繋がりがあり、資金活動を海外のイスラム系 NGO を通じて得ているとされている。また、ソ連によるアフガニスタン侵攻の際に、バングラデシュから多数のイスラム義勇兵がアフガニスタンに向かい、帰国後、国内においてイスラム過激組織を設立しているとされているが、実体は定かでない。一般的にはバングラデシュのイスラム教徒は穏健であるとされている。

( 2 ) 近年、ラジシャヒ県を中心にイスラム武装組織である「ジャグロト・ムスリム・ジョノタ・バングラデシュ( JMJB )」及び「ジャマトウル・ムジャヒディン・バングラデシュ( JMB )」の活動が活発化しつつある。JMJB は当初、全く政治性・イスラム色のない武装犯罪集団である「東ベンガル共産党( PBCP )」や「ショルボハラ」を最大の攻撃対象とするとしていたため、地域住民が支持し、警察も黙認しているとの報道がなされた。その後、JMJB の活動は次第に過激となり、警察との衝突が頻発し、民衆劇、NGO に対する爆破事件への関与が疑われるに至り、政府は

上記組織関係者を逮捕するとともに、2005年2月、両組織を非合法化した。

(3) 2005年10月初、2000年7月に発生したハシナ首相(当時)暗殺未遂事件に関与した疑いで起訴されていたイスラム過激派組織「ハルカトゥル・ジハード・アル・イスラミ(HUJI)」指揮官のムフティ・ハンナンがダッカ市内で逮捕された。政府はその約2週間後、同組織をテロリスト組織と認定し、HUJIの活動を禁止すると発表した。ハンナンは8月17日の同時多発爆事件に関与した容疑等で現在警察の取り調べを受けている。既に「シャハダット・アル・ヒクマ(Shahadat al Hiqma)」が非合法化されているため、非合法化されたイスラム武装組織は4つとなった。

## 5. 次期総選挙に向けた動き

(1) 今後、アワミ連盟が反政府運動を強化する中で、各党とも次第に選挙態勢にシフトするものとみられる。アワミ連盟は、政府が2004年5月、憲法改正により最高裁判事の定年を65歳から67歳に引き上げたのは、特定の人物を次期首席顧問(選挙管理内閣の長)に任命するための措置であると批判し、首席顧問は引退した直近の最高裁長官ではなく、各党のコンセンサスにより選ぶべきであると主張した。これに対し政府は、首席顧問の任命に関し各党の間でコンセンサスを得ることは不可能であるとして拒否している。また、2005年5月にM.A.サイード選挙管理委員長長の任期満了を迎え、政府は新委員長にアジズ最高裁上訴部判事を任命したが、野党と協議することなく政府が一方的に委員長を任命したことにアワミ連盟他の野党は反発を強め、アジズ委員長を受け入れない旨発表した。

(2) アワミ連盟にとっては1996年選挙ではBNPとJIが離反したことがアワミ連盟の勝利につながったことが重要なポイントになると考えられ、二大政党化が進む中でキャスティング・ボートを握っているとも言えるべきJIをめぐる動きが注目される。さらに過去3回の選挙ではいずれも政権が交替しており、また、BNPはJIと公式・非公式に協力した選挙では勝利しているという傾向が読みとれるが、次期選挙においてもBNPはJIと共闘するとみられることから、アワミ連盟にとり次期選挙は今後の長期的な党の興亡をかけた正念場ともいうべき重要な選挙になるとみられる。

(3) 政治解説者ナジム・カムラン・チョウドリー氏は10パーセントの浮動票が次期総選挙の結果を左右し、現政権に対する反対票が増えれば野党アワミ連盟に有利な状況が生まれると見ている。JI支持者は前回の選挙で大きな要因となったが、最近のイスラム過激派組織による事件等の影響を受けて、次期選挙では票が割れる可能性もある。

## 【参考】バングラデシュの主要政党と過去3回の総選挙

### ．主要政党

#### 1．アワミ連盟 (Bangladesh Awami League)

バングラデシュで最も古い政党であり、学生組織「チャットロ・リーグ」等の多くの下部組織を有し、農村部まで組織化されている。パキスタン時代、ムジブル・ラーマン・アワミ連盟総裁は東パキスタンの自治権拡大運動を展開したが国家反逆罪の廉で逮捕され、西パキスタンに移送された。独立後、ムジブル・ラーマン総裁はバングラデシュに帰国し、首相（その後大統領）として政権を担当した。1975年のムジブル・ラーマン大統領暗殺後は、長女のシェイク・ハシナが総裁を引き継いだ。アワミ連盟はハシナ総裁の下で1996年6月の総選挙で21年振りに政権に復帰したものの、2001年10月の選挙ではBNPに敗れた。独立当初にアワミ連盟が掲げた「社会主義」は「自由市場経済」に変更されており、「政教分離主義」、「ベンガル・ナショナリズム」的傾向も次第に弱まりつつある。基本的には親印的とされており、法曹界、大学関係者、文化人、ヒンドゥー教徒、少数民族の間で支持が強いとされている。

#### 2．BNP (バングラデシュ民族主義党、Bangladesh Nationalist Party)

ムジブル・ラーマン大統領暗殺後、戒厳令下で実権を掌握したジアウル・ラーマン陸軍参謀長が民政移管に備え、自己の権力の受け皿として1978年に結成した党である。ムジブル・ラーマン大統領暗殺後にアワミ連盟の対抗勢力として結成された経緯もあり、アワミ連盟との関係は極めて悪く、伝統的に親パキスタン・親中国的傾向が強い。ジアウル・ラーマン時代に、憲法に明記されていた「政教分離主義」は削除され、憲法の冒頭にコーランの一文が挿入された。「社会主義」も「経済・社会的公正」を意味するものとされた。1981年のジアウル・ラーマン大統領暗殺後、ジアウル・ラーマン大統領夫人のカレダ・ジアが党総裁に就任した。カレダ・ジア総裁は反エルシャド運動を展開し、エルシャド大統領退陣後の1991年の総選挙で勝利した。また、1996年の総選挙ではアワミ連盟に敗れたが、2001年の総選挙ではジャマティ・イスラミー他と共闘し、アワミ連盟に対し大差で勝利した。BNP国会議員には民間実業家、退役軍人が多く、経済開発が比較的進んだ地域、都市部の中間層の間で支持が強いとされる。

#### 3．国民党 (Jatiya Party)

ジアウル・ラーマン大統領暗殺後、無血クーデターで権力を掌握したフセイン・モハammad・エルシャド陸軍参謀長が、民政移管に備え、1986年に新設した中道右派政党である。エルシャド大統領は1990年12月に民主化運動の高まりにより退陣した後、汚職等の罪で6年間獄中にあり、1997年1月に釈放された後も多くの係争中の案件を抱えている。北西部のラングプールを中心とする地域では国民党に対する支持は強いが、その他の地域における国民党の勢力は次第に弱まりつつある。国民党は現在、エルシャド派、ナジウル派、マンジュ派の三派に分裂しているが、主流はエルシャド派であり、ナジウル派だけが連立政権に加わっている。

#### 4．ジャマティ・イスラミー (Jamaat-e-Islami Bangladesh)

イスラム教の価値に根ざした社会秩序の実現を目指す宗教政党である。印パ分離独立前の1941年にイスラム教に基づく憲法の制定を呼びかけて設立されたが、東パキスタンではほとんど影響力がなかった。バングラデシュの独立に反対し、パキスタン軍とともに独立運動支持者、大学教授等の有識者、ヒンドゥー教徒の殺害に荷担したため、独立後は活動が禁止された。その後、ジアウルラーマン、エルシャド両大統領時代に主としてイスラム教政党の支持を得る目的で活動が許され、政治活動を再開した。2001年の選挙においてはBNPと共闘し、大幅に議席数を伸ばし、現連立政権ではニザミ総裁を含む2名が入閣した。バングラデシュ西半分にはジャマティ・イスラミーが優勢ないくつかの地域が存在する。

・過去3回の1991、1996、2001年総選挙に見られる傾向（表1、表2、及び表3参照）

1．アワミ連盟とBNPの両政党による二大政党化が進んでおり、両党の得票率の合計は1991年には60.89%であったが、2001年には81.10%にまで増加した。また両党の得票率は敗れた選挙を含め常に増加している。

2．小選挙区制であるため、得票率の差がより増幅された形で議席数に反映されている。BNPは1991年の選挙では52席の差でアワミ連盟に勝利したが、BNPの得票率はアワミ連盟より0.73%上回っただけである。またBNPは2001年の選挙では131議席の大差でアワミ連盟に勝利したが、BNPとアワミ連盟の得票率の差はわずか0.84%であった。

3．選挙で勝利した党は、ダッカ、チッタゴン、クルナの三大都市の議席のほとんどすべてを獲得していることから、ダッカを中心とする大都市部が選挙の動向を左右しているとみられる。

4．アワミ連盟は農村部、ヒンドゥー教徒が多く居住する地域、さらにムジブル・ラーマン大統領の出身地であるゴパルガンジ県を中心とするパドマ河西岸において強い。BNPは比較的経済的に豊かな北西部から南東部に繋がるベルト地帯、さらに都市部において強いが、農村部においても勢力を増しつつある。BNPは過去3回のいずれの選挙においても100議席以上を獲得したが、アワミ連盟が100議席以上を獲得したのは、1996年の選挙のみである。

5．BNPの得票率の増加のかなりの部分は、ジャマティ・イスラミー支持者の票を吸収した結果とみられ（この結果、ジャマティ・イスラミーは得票率のみならず得票総数も減少傾向）、BNPはジャマティ・イスラミーと非公式・公式に選挙協力した選挙（各々1991年及び2001年）ではいずれも勝利し、ジャマティ・イスラミーとの協力が成立しなかった1996年の選挙では敗れている。

表1．党別獲得議席数・得票率

		1991年	1996年	2001年
アワミ連盟	議席数	88	146	62
	得票率	30.08%	37.49%	40.13%
BNP	議席数	140	116	193
	得票率	30.81%	33.62%	40.97%
ジャマティ・イスラミー	議席数	18	3	17
	得票率	12.13%	8.62%	4.28%
国民党 (エルシャド派)	議席数	35	32	14
	得票率	11.92%	16.41%	7.25%
国民党 (ナジウル・フィロズ派)	議席数	(両派は2001年に国民党より 分裂)		4
	得票率			1.12%
国民党 (マンジュ派)	議席数			1
	得票率			0.44%
IOJ (イスラム統一連合)	議席数	1	1	2
	得票率	0.79%	1.09%	0.68%
その他の党	議席数	15	1	1
	得票率	5.01%	0.23%	0.47%
無所属	議席数	3	1	6
	得票率	4.39%	1.06%	4.06%

注：表中の 印は与党

表2．三大都市におけるアワミ連盟・BNPの獲得議席数（300議席の内数）

都市名(議席数)	1991年		1996年		2001年	
	アワミ連盟	BNP	アワミ連盟	BNP	アワミ連盟	BNP
ダッカ(8)	0	8	7	1	0	8
チッタゴン(3)	0	3	1	2	0	3
クルナ(2)	0	2	1	1	0	2
計 13議席	0	13	9	4	0	13

表3．現在の党別国会議席数

(2005年12月6日現在)

	政党	一般議席	女性議席	計
与党4党連合 (264議席)	BNP(バングラデシュ民族主義党)	198	36	234
	ジャマティ・イスラミー	16	4	20
	国民党ナジウル派	4	1	5
	イスラム統一連合(10J)	4	1	5
野党 (76議席)	アワミ連盟	56	0	56
	国民党エルシャド派	14	3	17
	国民党モンジュ派	1	0	1
	BDB(新たな流れ)	1	0	1
	KSJL(農民労働者人民連盟)	1	0	1
無所属 (5議席)	無所属 (BNPから除籍されたヘナ議員を含む)	5	0	5
計		300	45	345